

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3770102204
法人名	有限会社 普門
事業所名	グループホームひがん
所在地	香川県高松市藤塚町1丁目11番5号
自己評価作成日	令和 3年 11月 11日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3770102204-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3770102204-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 3年 12月 3日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設内で委員会を設置し、各委員会が積極的に活動する事で入居者様の生活の質の向上や委員会活動を通した新人・職員教育を取り入れている。また、隣接している医院と医療連携体制をとっており、入居者様の状態急変時には迅速かつ適切な対応が可能である。看取りケアも実施している。広報誌は年3回発行しており、ホームページにてブログを更新し施設の様子などを紹介している。避難訓練は月に1度実施し、シェイクアウトにも積極的に参加しておりスタッフの防災意識の向上を図っている。慰問レクや外出レク等はコロナウイルス感染予防の為、現在実施していないが、代替え案をレクリエーション委員会が中心となり計画実施し、入居者様に楽しんで頂けるよう行事にも力を入れている。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ユニット管理者三人が情熱をもって同じ方向に向き、将来の在り方を自問自答しながら、ホームの理念を構築している。コロナ禍で充分にできない中、オーナーの手腕に期待しつつ、管理者が職員と利用者の満足を得るために、また、後継者を考えて質の向上を目指している。その中で、開設当初から勤務された職員が、18年家庭と両立し、出産、子育てと経験し、今もなお務めて頂き、その子供さんも成人になられ、親の背中を追いつつ、この施設に新しく勤めてくれ、施設の良さが窺われる。リビングでは、利用者の満悦した笑顔があふれ、居室に居る利用者もベッドに横たわりながらも楽しそうにお喋りに導いてくれたのも、その証であろう。コロナ以前の介護は、なかなか厳しいが、新たなデジタルとアナログの組み合わせで、新しい生活の役立ち関わり方を築きながら対応している。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、朝礼時に唱和している。理念は事務所・各ユニットの見やすい所に掲示し、実践に向けて日々取り組んでいる。	事業所の理念は職員で刷新した。毎日、朝礼時に唱和しているので、皆、覚えている。理念は各フロアに掲示している。新入職者には、キャリアに応じて最長、3ヶ月くらいで夜勤が出来る様に教育する。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為、地域との交流は見合わせている。年3回の広報誌や毎月のブログで地域に施設内の行事を発信している。	年3回の広報誌を町内の自治会長宅にポストインする際に、電話で情報交換をして、地域との交流を繋ごうと工夫している。毎月のブログは、県外の家族が「様子がよくわかるよ」と言って下さり、地域包括支援センター等に出向き、広報誌を手渡す中で、情報交換をしている。	コロナ禍だからこそ、終焉した時に、いきなり関係を作る事が出来ないのでは、今から、その準備をしては、如何でしょうか？
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の為、施設行事への招待は見合わせているが、広報誌やブログ等で地域に向けて情報を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染予防の為、地域の幅広い方々を招待しての会議は見合わせているが、近況報告や行事予定等の資料を見てもらっている。	書面会議として、従前どおり隔月に開催。メンバーは、自治会長・家族・保育園・地域包括支援センター・地域住民・市職員。広報誌から情報公開に取り組んでいるが、中でも、看取り期の方の様子を記事にして、メンバーに少しでもリアルにホーム状況がイメージして頂ける様に工夫している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市主催の講演会や研修会などにコロナウイルスの状況を日々確認しながら参加している。不明な事項については問い合わせして確認している。	窓口は事務長と事務員で、法令に関する事等、何かあれば、電話で相談出来る関係にある。市主催の講演会や研修会の案内に積極的に目を通し、新人・ベテラン共に参加の機会を提供している。参加者は、報告書を通じて周知している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月、身体拘束委員会を開催して十分に検討しており、ミーティング等でも随時検討している。検討項目があれば身体拘束委員会にて話し合う。基本的には、拘束の緩和・廃止に向けて話し合い共通意識を徹底している。扉については、立地条件上家族の希望もあり施錠をしている。	生命の危険を伴う自傷行為のある方は、医師から具体的対応方法が指示され、家族と職員と医師と十分に検討会議を重ね、毎月、身体拘束委員会を開催して、ミーティングで周知している。オフィス街に位置しているが、玄関は自動扉をONし、エレベーターのみ施錠機能をONしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を月1回開催して話し合いをしている。勉強会・全体会等で学び各ユニットのミーティングでは職員に話を聞き注意を払い防止をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等がある時は、参加をし勉強会で取り上げている。現在は必要な方はいないが、いつでも活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に丁寧に説明を行い理解・納得して頂いている。改定などあった場合は個別に説明を行い、理解して頂いた上でサイン・印鑑を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様と日々の生活の中で意見を聞いたり、面会時や電話で要望を聞きミーティング等で話し合い、情報の共有をし運営に反映させている。実施した内容に関しては意見提出をしてくれた方に報告を行い、一方的な実施にならないように努めている。	電話で差し入れの時に、希望の物をお願いしたんだけど、本人が食べないものも差し入れに混ぜていたので、管理者は、新たに注文用紙を作って買い物に行き、電話の要望通りに応える様にした。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会に施設長が参加し、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また、ミーティング時や個別に話を聞き月1回の管理者会議にて取り上げて検討している。また、職員意見が出やすいように随時話し合い、出しやすい状況や意見を出せる意欲が出るような取り組みを常に検討している。	普段の会話から導く様にしている。役員会議が決定会議となっている。もっと盛り上がる会議にしたいので、管理者も職員と、身近な話から関連性を作りたいたいと思案している。	組織だけに、難しいであろうが、本音で語れる場づくりをして、意見が反映出来る様な形を模索しては如何でしょうか？
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に一度の管理者会議で、各職員の勤務状況や要望等を報告し、働きやすい環境を整備している。また、年2回の自己評価にて各職員のスキルアップ・賞与の査定に反映されるよう取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の能力に応じた研修を受けてもらい。研修終了後は勉強会で報告を行い、職員全員がスキルアップ出来るように努めている。また、該当者には実践者研修やリーダー研修への参加を呼びかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為、機会は減っているが、参加した研修で、他施設の管理者や職員と交流し情報交換を行い、サービスの向上に努めたいと考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネジャー・管理者・職員全員が本人との関わりの中で得られた情報は情報共有し改善に努めている。ケアマネジャーに伝え、サービスの提供強化に反映させている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアマネジャー・管理者が困っている事や要望などを聞く。随時、近況報告を行い家族との信頼関係が築けるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアプラン作成時には必ず本人と家族に意見や要望を聞き、取り入れる。現場の職員はアセスメント・モニタリングを行い、サービス提供前には必ず説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中におけるコミュニケーションやレクリエーションにて少しずつ関係性を築きながら、一緒に過ごす時間を大切に信頼関係が築けるように努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナウイルス感染予防の為、ワクチン2回接種もしくはPCR検査の陰性証明の提出で1日の面会人数を制限して居室面会が出来るように対応している。ワクチンやPCR検査が困難な方には、引き続きLINEビデオ通話・スカイプ・玄関で透明なドアを挟んで姿を見ながらの電話で面会を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染予防の為、外出に関しては見合わせている。知人との面会はワクチン2回接種もしくはPCR検査の陰性証明の提出で1日の面会人数を制限して居室面会ができるように対応している。LINEビデオ通話・スカイプ・玄関で透明なドアを挟んで姿を見ながらの電話面会も引き続き対応している。	他県の家族、身近な家族とLINEビデオ通話・スカイプの面会や玄関で透明なドアを挟んで姿を見ながらの電話面会、訪問理美容、往診時や通院先が、馴染みとなっている。自粛期間で、女子会など利用者同士の馴染みが深まっている。俳句が趣味の方同士、小さな句会を楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の状況を把握しながら、いい関係が持てるように支援している。状況が悪い場合は、職員が仲介に入る・席替えにて良い環境作りを行う等、常に利用者の生活空気を気にかけている。また、孤立する人がいないように職員が仲介をし、生活レクなどで楽しめる空間作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他界された方には、ご家族様の了承を得て、コロナウイルス感染予防の為、代表して1名が焼香に行く。後日、ご家族様の話を聞き、職員で偲びのカンファレンスを実施している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の意見や希望を把握するように努め、ケアマネージャーと情報共有しケアプランに取り入れている。また、意見や希望を伝える事が困難な方は、家族に要望を聞いて出来るだけ本人本位に検討している。	意向を伝えられる方は、目線を合わせて、ゆっくり意向を聞き取り、できる限り叶うように配慮している。困難な方は、表情やしぐさから読み取り、家族に生活などを聞いて、本人本位となる様に取り組んで対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴を聞いている。また、生活していく中でコミュニケーションを取りながら入居者様・ご家族様に話を聞き大切なことは情報共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや介護記録に様子を記入し、ユニット会で話し合い情報の共有をし、心身の状態に応じた過ごし方を提供している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様・ご家族様の希望を確認して、モニタリングしケアマネージャーと情報を共有している。毎月の会議を開いた時に介護計画の見直しをして大切なことを取り入れている。	入居時のケアプランを3ヶ月で見直し、その間、状況状態に応じて見直している。モニタリングは毎月、職員と共有して介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録やモニタリングをする中で気付いた事をミーティングで話し合おう。また、随時対応したことは伝達ノートに記入し情報共有をしケアプランに取り入れている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望に応じて当事業者の有するサービスを紹介している。また、当事業者で提供できないサービスや、ご家族様・入居者様が他を希望された場合は、外部の施設などのサービスを紹介している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染予防の為、地域の行事の参加は見合わせている。代わりに施設内で季節に応じた行事を計画し実施したり、家族様との関わりを続けていく事で本人の心身の力が保てるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接している医院と連携体制をとり、入居者様・ご家族様の希望に添った医療が受けられるようにしている。また、他の医療機関を希望された時は紹介している。	入居時にかかりつけ医を選べるが、皆さん、母体法人がかかりつけとなる。他科も、通院を職員が介助する。歯科は、毎週訪問する。どの医療機関とも、話しやすい関係が構築されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の変化に気付いた時は、施設の看護師や隣接する医院の看護師に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	隣接している医院と医療連携をとっており、ケアマネージャー・医院看護師・施設看護師が情報交換しやすい環境になっている。入居者様は安心して入院・治療を受けられている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した際には、早い段階から入居者様・ご家族様の意思を確認しており、段階に応じて、その都度ご家族様・入居者様の意思を再確認し、安心して終末を迎えられるよう配慮している。	看取りをしている。そして、看取り研修を年1回実施している。デスクカンファレンスも、看取りの都度、開催し、より終末期に安心できるように、気がついたことを意見として出し合い、改善に向けている。隣接する母体のクリニックと連携して速やかに支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し、何時でも確認できる場所に置いている。勉強会等で定期的に確認を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月に1度、避難訓練を実施し、防災機器の操作も出来るように必要に応じて訓練を行っている。地域との協力体制については、コロナ感染予防の為、以前実施していたよう協力体性は継続しては取れていない。	月に1度、主は夜設定で利用者と一緒に避難訓練を実施。ハザードマップやマニュアルを緊急時に、一斉送信できるように整備している。備蓄は3日分用意して、缶詰・水が主である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎日の申し送りと情報伝達・共有で、個別の対応を行っている。また、声掛けや介助方法をユニット会にて見直しを行っている。	呼称は、苗字に「さん」を付けるが、本人が呼ばれて心地よい呼び方となる様に、家族に了解・確認を得て、ニックネームで呼ぶ事がある。入居時にノックをし、お名前を呼んで確認をとっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コロナ感染予防の為、外出に関する希望は叶えていないが、代替え案としてレクリエーション委員と協力し、移動販売レクリエーションを実施し買物の雰囲気味わって貰っている。また、誕生日に本人が希望した食べ物の提供だったり少しでも日常生活を楽しんで決定できるように働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	タイムテーブルで日々の基本的な流れは決まっているが、入居者様一人ひとりのペースを大切に、希望に応じて臨機応変に自由に過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服などは本人が愛用していた物を使用して貰っている。理美容はコロナウイルスの状況に応じてカットの訪問に来てもらっている。日常の整容は必要に応じて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	基本、食事は外注という形だが、おやつレク等を行い食事に関わる機会を作っている。また、普通食を食べる事が出来ない入居者様に関しては、おやつレク等でも個別に用意して提供したり、工夫を凝らしている。	ケータリングの物を、本人の食事形態に合わせて盛り付け、おやつ作りをレクリエーションとして、生活リハビリ・アクティビティに取り組んでいる。誕生日には、ピザの宅配を頼んだり、クリスマスには、移動販売を職員で設えて、手に取って選べる楽しみや紫蘇を摘んでジュースを手作りしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量・水分量を記録、毎月の体重測定によるBMIの変化を記録し、看護師と情報共有し必要に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯は就寝介助の際に預かり、洗浄液に浸けている。また、家族の了承のもと歯科受診や週1回の歯科衛生士による口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各入居者様の排泄パターンを把握し、月1回のフロアミーティングで対応を話し合い、入居者様に合った支援を行っている。本人の希望によって身体状況以上の介助を要する場合はミーティング等で話し合い、なるべく本人の意向に沿った介助を提供している。	カルテに細かく排泄状況が記されているので、その根拠を元にケアをしている。利用者の機能維持期間は長く保たれ、健康的な生活で暮らせている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量は毎日記録し確認を行い、摂取量が少ない入居者様には飲んで貰える代わりに飲み物を提供している。また排便状況により、医師・看護師と相談・報告を行い、対応支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日と入浴時間は決められている。入居者様の体調のすぐれない時や本人様が、拒否した場合は無理せず他の日で代用する等支援をしている。	入浴は週2回。特浴・チェア浴も用意されているので、介護状態に応じたケアが出来る。嫌がる方には、医師も職員と混ざって言葉を掛けてくれるので、利用者は、ストレスも少なく入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の生活パターンや個々の状況に応じて、その日の行事・体調を考慮しながら休息して貰っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬についての説明書等はいつでも見えるように保管し、職員は内容を把握するように努めている。また、受診等により変更や追加があった場合は、副作用や用法・要領等を伝達ノート、看護記録等に記録し情報共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の状態に応じて生活リハビリや簡単なレクリエーション等を実施している。しかし、個性を生かした取り組みは一部のみで、全入居者様に対しては実現できていない。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在コロナ感染対策の為、外出支援等は実施できていない。外出気分転換になるように、園芸委員会と協力し利用者様の好みや花を植え屋上散歩を実施し気分転換を図っている。	屋上のテラスが、専ら外出場所で、菜園の手入れや日向ぼっこを楽しんでいる。フロアの道すがら、お宮や神社を設けて、利用者の五感や習慣に働きかけて、外出の意欲を引き出そうとしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことの大切さは理解したうえで、施設の方針として金銭管理は事務で預かっている。その上で、希望する人には書類記入後に自己管理をしてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が希望した際には、電話をかけたり、家族からの希望があった際には、オンライン通信を実施している。また、手紙等のやり取り支援も希望の際は対応している。携帯電話の自己管理も本人、家族の強い希望がある時は認知症状の状態を加味しながら自己管理をしてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間が居心地よく過ごせるよう衛生管理、生活環境の整備は怠らないようにしている。	どこに足を踏み入れても掃除が行き届き、空調も程よく嫌な臭いもしない。1階の相談室に入ると、なんとも落ち着いた雰囲気なのだが、見れば、中庭の本式の茶室の待合と敷石が、その雰囲気を醸しているのだろう。装飾も、季節感が味わえる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士の相性や過ごし方を考慮して、居場所の工夫に取り組んでいる。過ごしにくい状況が発生したり、トラブルがあった際には、ミーティング等で検討したり、随時席替え等で対応をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居手続きの際に、家族や本人に使い慣れたもの、なじみの物など、持ち込みを促している。生活の中でも必要な物があれば家族に連絡し本人が居心地よく過ごせるよう連絡を取り必要なものを依頼している。	ベッド、洗面台、ロッカー、防災カーテンが備え付けられ、利用者は家族との思い入れの品や使い慣れた物を持ち込んで、思い思いの場所に飾り、個性を表現できている。家族から、利用者の暮らしを聞き、できる限り、その方の生活ができるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人の状態に応じて、個別の生活リハビリを活用しながら『できること・わかること』に取り組み、安全かつ自立した生活に繋がるよう支援をしているが全入居者様に対しては取り組めていない。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3770102204		
法人名	有限会社 普門		
事業所名	グループホームひがん		
所在地	香川県高松市藤塚町1丁目11番5号		
自己評価作成日	令和 3年 11月 11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3770102204-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3770102204-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	令和 3年 12月 3日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設内で委員会を設置し、各委員会が積極的に活動する事で入居者様の生活の質の向上や委員会活動を通した新人・職員教育を取り入れている。また、隣接している医院と医療連携体制をとっており、入居者様の状態急変時には迅速かつ適切な対応が可能である。看取りケアも実施している。広報誌は年3回発行しており、ホームページにてブログを更新し施設の様子などを紹介している。避難訓練は月に1度実施し、シェイクアウトにも積極的に参加しておりスタッフの防災意識の向上を図っている。慰問レクや外出レク等はコロナウイルス感染予防の為、現在実施していないが、代替え案をレクリエーション委員会が中心となり計画実施し、入居者様に楽しんで頂けるよう行事にも力を入れている。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ユニット管理者三人が情熱をもって同じ方向に向き、将来の在り方を自問自答しながら、ホームの理念を構築している。コロナ禍で充分にできない中、オーナーの手腕に期待しつつ、管理者が職員と利用者の満足を得るために、また、後継者を考えて質の向上を目指している。その中で、開設当初から勤務された職員が、18年家庭と両立し、出産、子育てと経験し、今もお務めて頂き、その子供さんも成人になられ、親の背中を追いつつながら、この施設に新しく勤めてくれ、施設の良さが窺われる。リビングでは、利用者の満悦した笑顔があふれ、居室に居る利用者もベッドに横たわりながらも楽しそうにお喋りに導いてくれたのも、その証であろう。コロナ以前の介護は、なかなか厳しいが、新たなデジタルとアナログの組み合わせで、新しい生活の役立ち関わり方を築きながら対応している。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、朝礼時に唱和している。理念は事務所・各ユニットの見やすい所に掲示し、実践に向けて日々取り組んでいる。	事業所の理念は職員で刷新した。毎日、朝礼時に唱和しているので、皆、覚えている。理念は各フロアに掲示している。新入職者には、キャリアに応じて最長、3ヶ月くらいで夜勤が出来る様に教育する。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為、地域との交流は見合わせている。年3回の広報誌や毎月のブログで地域に施設内の様子や行事を発信している。	年3回の広報誌を町内の自治会長宅にポストインする際に、電話で情報交換をして、地域との交流を繋ごうと工夫している。毎月のブログは、県外の家族が「様子がよくわかるよ」と言って下さり、地域包括支援センター等に出向き、広報誌を手渡す中で、情報交換をしている。	コロナ禍だからこそ、終焉した時に、いきなり関係を作る事が出来ないのでは、今から、その準備をしては、如何でしょうか？
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の為、施設行事への招待は見合わせているが、ホームページの更新、広報誌やブログ等で地域に向けて情報を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染予防の為、地域の幅広い方々を招待しての会議は見合わせているが、運営推進委員会の月には資料として近況報告や行事予定等の資料を見てもらっている。	書面会議として、従前どおり隔月に開催。メンバーは、自治会長・家族・保育園・地域包括支援センター・地域住民・市職員。広報誌から情報公開に取り組んでいるが、中でも、看取り期の方の様子を記事にして、メンバーに少しでもリアルにホーム状況がイメージして頂ける様に工夫している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市主催の講演会や研修会などにコロナウイルスの感染状況に留意しながら参加している。不明な事項については問い合わせして確認している。	窓口は事務長と事務員で、法令に関する事等、何かあれば、電話で相談出来る関係にある。市主催の講演会や研修会の案内に積極的に目を通し、新人・ベテラン共に参加の機会を提供している。参加者は、報告書を通じて周知している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月、身体拘束委員会を開催して十分に検討をしている。どうしても実施が必要な場合はきちんと話し合い、基本的には、拘束をしないよう職員で話し合っている。扉については、立地条件上家族の希望もあり施錠をしている。	生命の危険を伴う自傷行為のある方は、医師から具体的対応方法が指示され、家族と職員と医師と十分に検討会議を重ね、毎月、身体拘束委員会を開催して、ミーティングで周知している。オフィス街に位置しているが、玄関は自動扉をONし、エレベーターのみ施錠機能をONしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を月1回開催して話し合いをしている。勉強会・全体会等で学び、各ユニットのミーティングや個々に職員に話を聞き防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等がある時は、参加をし勉強会で取り上げているが、事業や制度をきちんと認識している職員はいない。いつでも活用できるよう努めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に丁寧に説明を行い理解・納得して頂いている。改定などあった場合は個別に説明を行い、理解して頂いた上でサイン・印鑑を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様と日々の生活の中で意見を聞いたり、面会時や電話で要望を聞き、ミーティング等で話し合い、情報の共有をし運営に反映させている。	電話で差し入れの時に、希望の物をお願いしたんだけど、本人が食べないものも差し入れに混ぜていたので、管理者は、新たに注文用紙を作って買い物に行き、電話の要望通りに応える様にした。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会に施設長が参加し、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また、ミーティング時や個別に話を聞き月1回の管理者会議にて取り上げて検討している。	普段の会話から導く様にしている。役員会議が決定会議となっている。もっと盛り上がる会議にしたいので、管理者も職員と、身近な話から関連性を作りたと思案している。	組織だけに、難しいであろうが、本音で語れる場づくりをして、意見が反映出来る様な形を模索しては如何でしょうか？
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に一度の管理者会議で、各職員の勤務状況や要望等を報告し、働きやすい環境を整備している。また、年2回の自己評価を行い、各職員のスキルアップに努め・賞与の査定に反映されるよう取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の能力に応じた研修を受けてもらい。研修終了後は勉強会で報告を行い、職員全員がスキルアップ出来るように努めている。また、該当者には実践者研修やリーダー研修への参加を呼びかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為、機会は減っているが、参加した研修で、他施設の管理者や職員と交流し情報交換を行い、サービスの向上に努めたい。また同地域の事業所とも交流できるよう努めていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネジャー・管理者が面談を行い。普段の関りの中で得られた情報は、ケアマネジャーに伝え、共有に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアマネジャー・管理者が困っている事や要望などを聞く。随時、近況報告を行い家族との信頼関係が築けるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアプラン作成時には必ず本人と家族に意見や要望を聞き、取り入れる。現場の職員はアセスメント・モニタリングを行い、サービス提供前には必ず説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中でコミュニケーションやレクリエーション、生活リハビリを行い一緒に過ごす時間を大事にし信頼関係が築けるように努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナウイルス感染予防の為、ワクチン2回接種もしくはPCR検査の陰性証明の提出で1日の面会人数を制限して居室面会ができるように対応している。ワクチンやPCR検査が困難な方には、引き続きLINEビデオ通話・スカイプ・玄関越しでの面会を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染予防の為、外出に関しては見合わせている。知人との面会はワクチン2回接種もしくはPCR検査の陰性証明の提出で1日の面会人数を制限して居室面会ができるように対応している。LINEビデオ通話・スカイプ・玄関越しでの面会も引き続き対応している。	他県の家族、身近な家族とLINEビデオ通話・スカイプの面会や玄関で透明なドアを挟んで姿を見ながらの電話面会、訪問理美容、往診時や通院先が、馴染みとなっている。自粛期間で、女子会など利用者同士の馴染みが深まっている。俳句が趣味の方同士、小さな句会を楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の状況を把握しながら、いい関係が持てるように支援している。また、孤立する人がないように職員が仲介をし、生活リハビリやレクリエーションなど共同で楽しめる空間作りにも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他界された方には、ご家族様の了承を得て、コロナウイルス感染予防の為、代表して1名が焼香に行く。後日、ご家族様の話を聞き、職員で偲びのカンファレンスを実施している。自宅復帰や他施設に入居された場合は相談等がある場合は対応していきたい。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の意見や希望を把握するように努め、ケアマネージャーと情報共有しケアプランに取り入れ、またミーティング等でも話しあっている。意見や希望を伝える事が困難な人は、普段の様子から考え、出来るだけ本人本位に検討している。	意向を伝えられる方は、目線を合わせて、ゆっくり意向を聞き取り、できる限り叶うように配慮している。困難な方は、表情やしぐさから読み取り、家族に生活などを聞いて、本人本位となる様に取り組んで対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に生活歴を聞いている。また、生活していく中でコミュニケーションを取りながら入居者様・ご家族様に話を聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや介護記録に様子を記入し、ユニット会で話し合い情報の共有をし、心身の状態に応じた過ごし方を提供している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様・ご家族様の希望を確認して、モニタリングしケアマネージャーと情報を共有している。毎月のミーティング時に様子や支援方法等を検討している。	入居時のケアプランを3ヶ月で見直し、その間、状況状態に応じて見直している。モニタリングは毎月、職員と共有して介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録やモニタリングをする中で気付いた事をミーティングで話し合い、ケアマネージャーや職員で情報共有を行いケアプランに取り入れている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望に応じて当事業者の有するサービスを紹介している。また、当事業者で提供できないサービスや、ご家族様・入居者様が他を希望された場合は、外部の施設などのサービスを紹介している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染予防の為、地域の行事の参加は見合わせている。代わりに施設内で季節に応じた行事を計画し実施している。改めて地域資源の把握を行い支援に役立てることを目指していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接している医院と連携体制をとり、入居者様・ご家族様の希望に添った医療が受けられるようにしている。また、他の医療機関を希望された時は紹介している。	入居時にかかりつけ医を選べるが、皆さん、母体法人がかかりつけとなる。他科も、通院を職員が介助する。歯科は、毎週訪問する。どの医療機関とも、話しやすい関係が構築されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の変化に気付いた時は、施設の看護師や隣接する医院の看護師に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	隣接している医院と医療連携をとっており、ケアマネージャー・医院・看護師・施設看護師が情報交換しやすい環境になっている。入居者様は安心して入院・治療を受けられている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した際には、早い段階から入居者様・ご家族様の意思を確認しており、段階に応じて、その都度ご家族様・入居者様の意思を再確認し、安心して終末を迎えられるよう配慮している。	看取りをしている。そして、看取り研修を年1回実施している。デスクカンファレンスも、看取りの都度、開催し、より終末期に安心できるように、気がついたことを意見として出し合い、改善に向けている。隣接する母体のクリニックと連携して速やかに支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し、何時でも確認できる場所に置いている。勉強会等で定期的確認を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月に1度、避難訓練を実施し、防災機器の操作も出来るように必要に応じて訓練を行っている。災害時のBCP作成に向け取り組みを開始している。	月に1度、主は夜設定で利用者と一緒に避難訓練を実施。ハザードマップやマニュアルを緊急時に、一斉送信できるように整備している。備蓄は3日分用意して、缶詰・水が主である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎日の申し送りやミーティング等で情報共有し、その方の性格等も理解していくことで個別の対応を行っている。	呼称は、苗字に「さん」を付けるが、本人が呼ばれて心地よい呼び方となる様に、家族に了解・確認を得て、ニックネームで呼ぶ事がある。入居時にノックをし、お名前を呼んで確認をとっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コロナウイルス感染予防の為、外出に関する希望は叶えられていないが、代替え案としてレクリエーション委員と協力し、移動販売レクリエーションを実施し買物の雰囲気味わって貰っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	タイムテーブルで日々の基本的な流れは決まっているが、入居者様一人ひとりのペースを大切に、希望に応じて臨機応変に自由に過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服などは本人が愛用していた物を使用して貰っている。理美容はコロナウイルスの状況に応じてカットの訪問に来てもらっている。日常の整容は必要に応じて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	基本、食事は外注という形だが、おやつレク等を行い食事に関わる機会を作っている。生活リハビリとしてできる方には盛り付け等をおこなってもらっている。	ケータリングの物を、本人の食事形態に合わせて盛り付け、おやつ作りをレクリエーションとして、生活リハビリ・アクティビティに取り組んでいる。誕生日には、ピザの宅配を頼んだり、クリスマスには、移動販売を職員で設えて、手に取って選べる楽しみや紫蘇を摘んでジュースを手作りしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量・水分量を記録、毎月の体重測定によるBMIの変化を記録し、看護師と情報共有し必要に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要な方には義歯はこちらで預かり、洗浄液に浸けている。また、家族の了承のもと歯科受診や週1回の歯科衛生士による口腔ケアを行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各入居者様の排泄パターンを把握し、月1回のフロアミーティングで対応を話し合い、入居者様に合った支援を行っている。	カルテに細かく排泄状況が記されているので、その根拠を元にケアをしている。利用者の機能維持期間は長く保たれ、健康的な生活で暮らせている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量は毎日記録し確認を行い、摂取量が少ない入居者様には飲んで貰える代替りの飲み物を提供している。また排便状況により、医師・看護師と相談・報告を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日と入浴時間は決められている。入居者様の体調のすぐれない時や本人様が、拒否した場合は無理せず他の日で代用する等支援をしている。	入浴は週2回。特浴・チェア浴も用意されているので、介護状態に応じたケアが出来る。嫌がる方には、医師も職員と混ざって言葉を掛けてくれるので、利用者は、ストレスも少なく入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の生活パターンやその日の行事・体調に応じて居室で休んでもらうよう声掛けを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬についての説明書等はいつでも見えるように保管し、職員は内容を把握するように努めている。また、受診等により変更や追加があった場合は、副作用や用法・要領等を伝達ノート、看護記録等に記録し情報共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の状態に応じて生活リハビリや簡単なレクリエーション等を実施している。しかし、個性を生かした取り組みは一部のみで、今後もっと増やしていきたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在コロナ感染対策の為、外出支援等は実施できていない。外出気分転換になるように、園芸委員会と協力し利用者様の好みや花を植え屋上散歩を実施し気分転換を図っている。	屋上のテラスが、専ら外出場所で、菜園の手入れや日向ぼっこを楽しんでいる。フロアの道すがら、お宮や神社を設けて、利用者の五感や習慣に働きかけて、外出の意欲を引き出そうとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことの大切さは理解したうえで、施設の方針として金銭管理は事務で預かっている。その上で、希望する人には書類記入後に自己管理をしてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が希望した際には、電話をかけたり、家族からの希望があった際には、オンライン通信を実施している。また、手紙等のやり取り支援も希望の際は対応している。携帯電話の自己管理も本人、家族の希望がある時は認知症状の状態を加味しながら自己管理をしてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間が居心地よく過ごせるよう衛生管理、生活環境の整備は怠らないようにしている。	どこに足を踏み入れても掃除が行き届き、空調も程よく嫌な臭いもしない。1階の相談室に入ると、なんとも落ち着いた雰囲気なのだが、見れば、中庭の本式の茶室の待合と敷石が、その雰囲気を醸しているのだろう。装飾も、季節感が味わえる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士の相性や過ごし方を考慮して、居場所の工夫に取り組んでいる。過ごしにくい状況が発生したり、トラブルがあった際には、ミーティング等で検討し席替え等で対応をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居手続きの際に、家族や本人に使い慣れたもの、なじみの物など、持ち込みを促している。生活の中でも必要な物があれば家族に連絡し本人が居心地よく過ごせるよう連絡を取り必要なものを依頼している。	ベッド、洗面台、ロッカー、防災カーテンが備え付けられ、利用者は家族との思い入れの品や使い慣れた物を持ち込んで、思い思いの場所に飾り、個性を表現できている。家族から、利用者の暮らしを聞き、できる限り、その方の生活ができるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人の状態に応じて、個別の生活リハビリを活用しながら『できること・わかること』に取り組んで、安全かつ自立した生活に繋がるよう支援をしているが、十分な取り組みはできていない。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3770102204
法人名	有限会社 普門
事業所名	グループホームひがん
所在地	香川県高松市藤塚町1丁目11番5号
自己評価作成日	令和 3年 11月 11日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3770102204-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3770102204-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 3年 12月 3日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設内で委員会を設置し、各委員会が積極的に活動する事で入居者様の生活の質の向上や委員会活動を通した新人・職員教育を取り入れている。また、隣接している医院と医療連携体制をとっており、入居者様の状態急変時には迅速かつ適切な対応が可能である。看取りケアも実施している。広報誌は年3回発行しており、ホームページにてブログを更新し施設の様子などを紹介している。避難訓練は月に1度実施し、シェイクアウトにも積極的に参加しておりスタッフの防災意識の向上を図っている。慰問レクや外出レク等はコロナウイルス感染予防の為、現在実施していないが、代替え案をレクリエーション委員会が中心となり計画実施し、入居者様に楽しんで頂けるよう行事にも力を入れている。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ユニット管理者三人が情熱をもって同じ方向に向き、将来の在り方を自問自答しながら、ホームの理念を構築している。コロナ禍で充分にできない中、オーナーの手腕に期待しつつ、管理者が職員と利用者の満足を得るために、また、後継者を考えて質の向上を目指している。その中で、開設当初から勤務された職員が、18年家庭と両立し、出産、子育てと経験し、今もなお務めて頂き、その子供さんも成人になられ、親の背中を追いつつ、この施設に新しく勤めてくれ、施設の良さが窺われる。リビングでは、利用者の満悦した笑顔があふれ、居室に居る利用者もベッドに横たわりながらも楽しそうにお喋りに導いてくれたのも、その証であろう。コロナ以前の介護は、なかなか厳しいが、新たなデジタルとアナログの組み合わせで、新しい生活の役立ち関わり方を築きながら対応している。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、朝礼時に唱和している。理念は事務所・各ユニットの見やすい所に掲示し、実践に向けて日々取り組んでいる。	事業所の理念は職員で刷新した。毎日、朝礼時に唱和しているので、皆、覚えている。理念は各フロアに掲示している。新入職者には、キャリアに応じて最長、3ヶ月くらいで夜勤が出来る様に教育する。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為、地域との交流は見合わせている。年3回の広報誌や毎月のブログで地域に施設内の行事を発信している。	年3回の広報誌を町内の自治会長宅にポストインする際に、電話で情報交換をして、地域との交流を繋ごうと工夫している。毎月のブログは、県外の家族が「様子がよくわかるよ」と言って下さり、地域包括支援センター等に出向き、広報誌を手渡す中で、情報交換をしている。	コロナ禍だからこそ、終焉した時に、いきなり関係を作る事が出来ないのでは、今から、その準備をしては、如何でしょうか？
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の為、施設行事への招待は見合わせているが、広報誌やブログ等で地域に向けて情報を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染予防の為、地域の幅広い方々を招待しての会議は見合わせているが、近況報告や行事予定等の資料を見てもらっている。	書面会議として、従前どおり隔月に開催。メンバーは、自治会長・家族・保育園・地域包括支援センター・地域住民・市職員。広報誌から情報公開に取り組んでいるが、中でも、看取り期の方の様子を記事にして、メンバーに少しでもリアルにホーム状況がイメージして頂ける様に工夫している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市主催の講演会や研修会などにコロナウイルスの状況を日々確認しながら参加している。不明な事項については問い合わせして確認をしている。	窓口は事務長と事務員で、法令に関する事等、何かあれば、電話で相談出来る関係にある。市主催の講演会や研修会の案内に積極的に目を通し、新人・ベテラン共に参加の機会を提供している。参加者は、報告書を通じて周知している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月、身体拘束委員会を開催して十分に検討をしている。基本的には、拘束の緩和・廃止に向けて話し合いをしている。扉については、立地条件上家族の希望もあり施錠をしている。	生命の危険を伴う自傷行為のある方は、医師から具体的対応方法が指示され、家族と職員と医師と十分に検討会議を重ね、毎月、身体拘束委員会を開催して、ミーティングで周知している。オフィス街に位置しているが、玄関は自動扉をONし、エレベーターのみ施錠機能をONしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を月1回開催して話し合いをしている。勉強会・全体会等で学び各ユニットのミーティングでは職員に話を聞き注意を払い防止をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等がある時は、参加をし勉強会で取り上げている。現在は必要な方はいないが、いつでも活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に丁寧に説明を行い理解・納得して頂いている。改定などあった場合は個別に説明を行い、理解して頂いた上でサイン・印鑑を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様と日々の生活の中で意見を聞いたり、面会時や電話で要望を聞き、ミーティング等で話し合い、情報の共有をし運営に反映させている。	電話で差し入れの時に、希望の物をお願いしたんだけど、本人が食べないものも差し入れに混ぜていたので、管理者は、新たに注文用紙を作って買い物に行き、電話の要望通りに応える様にした。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会に施設長が参加し、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また、ミーティング時や個別に話を聞き月1回の管理者会議にて取り上げて検討している。	普段の会話から導く様になっている。役員会議が決定会議となっている。もっと盛り上がる会議にしたいので、管理者も職員と、身近な話から関連性を作りたいと思案している。	組織だけに、難しいであろうが、本音で語れる場づくりをして、意見が反映出来る様な形を模索しては如何でしょうか？
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に一度の管理者会議で、各職員の勤務状況や要望等を報告し、働きやすい環境を整備している。また、年2回の自己評価にて各職員のスキルアップ・賞与の査定に反映されるよう取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の能力に応じた研修を受けてもらい。研修終了後は勉強会で報告を行い、職員全員がスキルアップ出来るように努めている。また、該当者には実践者研修やリーダー研修への参加を呼びかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為、機会は減っているが、参加した研修で、他施設の管理者や職員と交流し情報交換を行い、サービスの向上に努めたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネジャー・管理者が面談を行い。普段の関りの中で得られた情報は、ケアマネジャーに伝え、共有に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアマネジャー・管理者が困っている事や要望などを聞く。随時、近況報告を行い家族との信頼関係が築けるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアプラン作成時には必ず本人と家族に意見や要望を聞き、取り入れる。現場の職員はアセスメント・モニタリングを行い、サービス提供前には必ず説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中でコミュニケーションやレクリエーションを行い。少しずつ顔なじみになってもらい一緒に過ごす時間を大事にし信頼関係が築けるように努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナウイルス感染予防の為、ワクチン2回接種もしくはPCR検査の陰性証明の提出で1日の面会人数を制限して居室面会ができるように対応している。ワクチンやPCR検査が困難な方には、引き続きLINEビデオ通話・スカイプ・玄関で透明なドアを挟んで姿を見ながらの電話で面会を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染予防の為、外出に関しては見合わせている。知人との面会はワクチン2回接種もしくはPCR検査の陰性証明の提出で1日の面会人数を制限して居室面会ができるように対応している。LINEビデオ通話・スカイプ・玄関で透明なドアを挟んで姿を見ながらの電話面会も引き続き対応している。	他県の家族、身近な家族とLINEビデオ通話・スカイプの面会や玄関で透明なドアを挟んで姿を見ながらの電話面会、訪問理美容、往診時や通院先が、馴染みとなっている。自粛期間で、女子会など利用者同士の馴染みが深まっている。俳句が趣味の方同士、小さな句会を楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の状況を把握しながら、いい関係が持てるように支援している。また、孤立する人がないように職員が仲介をし、生活レクなどで楽しめる空間作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他界された方には、ご家族様の了承を得て、コロナウイルス感染予防の為、代表して1名が焼香に行く。後日、ご家族様の話を聞き、職員で偲びのカンファレンスを実施している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の意見や希望を把握するように努め、ケアマネージャーと情報共有しケアプランに取り入れている。また、意見や希望を伝える事が困難な人は、家族に要望を聞いて出来るだけ本人本位に検討している。	意向を伝えられる方は、目線を合わせて、ゆっくり意向を聞き取り、できる限り叶うように配慮している。困難な方は、表情やしぐさから読み取り、家族に生活などを聞いて、本人本位となる様に取り組んで対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に生活歴を聞いている。また、生活していく中でコミュニケーションを取りながら入居者様・ご家族様に話を聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや介護記録に様子を記入し、ユニット会で話し合い情報の共有をし、心身の状態に応じた過ごし方を提供している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様・ご家族様の希望を確認して、モニタリングしケアマネージャーと情報を共有している。毎月の会議を開いた時に介護計画の見直しをしている。	入居時のケアプランを3ヶ月で見直し、その間、状況状態に応じて見直している。モニタリングは毎月、職員と共有して介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録やモニタリングをする中で気付いた事をミーティングで話し合い、情報共有をしケアプランに取り入れている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望に応じて当事業者の有するサービスを紹介している。また、当事業者で提供できないサービスや、ご家族様・入居者様が他を希望された場合は、外部の施設などのサービスを紹介している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染予防の為、地域の行事の参加は見合わせている。代わりに施設内で季節に応じた行事を計画し実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接している医院と連携体制をとり、入居者様・ご家族様の希望に添った医療が受けられるようにしている。また、他の医療機関を希望された時は紹介している。	入居時にかかりつけ医を選べるが、皆さん、母体法人がかかりつけとなる。他科も、通院を職員が介助する。歯科は、毎週訪問する。どの医療機関とも、話しやすい関係が構築されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の変化に気付いた時は、施設の看護師や隣接する医院の看護師に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	隣接している医院と医療連携をとっており、ケアマネージャー・医院看護師・施設看護師が情報交換しやすい環境になっている。入居者様は安心して入院・治療を受けられている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した際には、早い段階から入居者様・ご家族様の意思を確認しており、段階に応じて、その都度ご家族様・入居者様の意思を再確認し、安心して終末を迎えられるよう配慮している。	看取りをしている。そして、看取り研修を年1回実施している。デスクカンファレンスも、看取りの都度、開催し、より終末期に安心できるように、気がついたことを意見として出し合い、改善に向けている。隣接する母体のクリニックと連携して速やかに支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し、何時でも確認できる場所に置いている。勉強会等で定期的確認を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月に1度、避難訓練を実施し、防災機器の操作も出来るように必要に応じて訓練を行っている。	月に1度、主は夜設定で利用者と一緒に避難訓練を実施。ハザードマップやマニュアルを緊急時に、一斉送信できるように整備している。備蓄は3日分用意して、缶詰・水が主である。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎日の申し送りと情報伝達・共有で、個別の対応を行っている。また、声掛けや介助方法をユニット会にて見直しを行っている。	呼称は、苗字に「さん」を付けるが、本人が呼ばれて心地よい呼び方となる様に、家族に了解・確認を得て、ニックネームで呼ぶ事がある。入居時にノックをし、お名前を呼んで確認をとっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コロナウイルス感染予防の為、外出に関する希望は叶えられていないが、代替え案としてレクリエーション委員と協力し、移動販売レクリエーションを実施し買物の雰囲気味わって貰っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	タイムテーブルで日々の基本的な流れは決まっているが、入居者様一人ひとりのペースを大切に、希望に応じて臨機応変に自由に過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服などは本人が愛用していた物を使用して貰っている。理美容はコロナウイルスの状況に応じてカットの訪問に来てもらっている。日常の整容は必要に応じて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	基本、食事は外注という形だが、おやつレク等を行い食事に関わる機会を作っている。また、外注の食事を食べる事が出来ない入居者様に関しては、個別に用意して提供している。	ケータリングの物を、本人の食事形態に合わせて盛り付け、おやつ作りをレクリエーションとして、生活リハビリ・アクティビティに取り組んでいる。誕生日には、ピザの宅配を頼んだり、クリスマスには、移動販売を職員で設えて、手に取って選べる楽しみや紫蘇を摘んでジュースを手作りしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量・水分量を記録、毎月の体重測定によるBMIの変化を記録し、看護師と情報共有し必要に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯は週3回こちらで預かり、洗浄液に浸けている。また、家族の了承のもと歯科受診や週1回の歯科衛生士による口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各入居者様の排泄パターンを把握し、月1回のフロアミーティングで対応を話し合い、入居者様に合った支援を行っている。	カルテに細かく排泄状況が記されているので、その根拠を元にケアをしている。利用者の機能維持期間は長く保たれ、健康的な生活で暮らせている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量は毎日記録し確認を行い、摂取量が少ない入居者様には飲んで貰える代わりに飲み物を提供している。また排便状況により、医師・看護師と相談・報告を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日と入浴時間は決められている。入居者様の体調のすぐれない時や本人様が拒否した場合は無理せず他の日で代用する等支援をしている。	入浴は週2回。特浴・チェア浴も用意されているので、介護状態に応じたケアが出来る。嫌がる方には、医師も職員と混ざって言葉を掛けてくれるので、利用者は、ストレスも少なく入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の生活パターンやその日の行事・体調に応じて休息して貰っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬についての説明書等はいつでも見えるように保管し、職員は内容を把握するように努めている。また、受診等により変更や追加があった場合は、副作用や用法・要領等を伝達ノート、看護記録等に記録し情報共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の状態に応じて生活リハビリや簡単なレクリエーション等を実施している。しかし、個性を生かした取り組みは一部のみで、全入居者様に対しては実現できていない。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在コロナ感染対策の為、外出支援等は実施できていない。外出気分転換になるように、園芸委員会と協力し利用者様の好みや花を植え屋上散歩を実施し気分転換を図っている。	屋上のテラスが、専ら外出場所で、菜園の手入れや日向ぼっこを楽しんでいる。フロアの道すがら、お宮や神社を設けて、利用者の五感や習慣に働きかけて、外出の意欲を引き出そうとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことの大切さは理解したうえで、施設の方針として金銭管理は事務で預かっている。その上で、希望する人には書類記入後に自己管理をしてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が希望した際には、電話をかけたり、家族からの希望があった際には、オンライン通信を実施している。また、手紙等のやり取り支援も希望の際は対応している。携帯電話の自己管理も本人、家族の強い希望がある時は認知症状の状態を加味しながら自己管理をしてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間が居心地よく過ごせるよう衛生管理、生活環境の整備は怠らないようにしている。	どこに足を踏み入れても掃除が行き届き、空調も程よく嫌な臭いもしない。1階の相談室に入ると、なんとも落ち着いた雰囲気なのだが、見れば、中庭の本式の茶室の待合と敷石が、その雰囲気を醸しているのだろう。装飾も、季節感が味わえる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士の相性や過ごし方を考慮して、居場所の工夫に取り組んでいる。過ごしにくい状況が発生したり、トラブルがあった際には、ミーティング等で検討し席替え等で対応をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居手続きの際に、家族や本人に使い慣れたもの、なじみの物など、持ち込みを促している。生活の中でも必要な物があれば家族に連絡し本人が居心地よく過ごせるよう連絡を取り必要なものを依頼している。	ベッド、洗面台、ロッカー、防災カーテンが備え付けられ、利用者は家族との思い入れの品や使い慣れた物を持ち込んで、思い思いの場所に飾り、個性を表現できている。家族から、利用者の暮らしを聞き、できる限り、その方の生活ができるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人の状態に応じて、個別の生活リハビリを活用しながら『できること・わかること』に取り組んで、安全かつ自立した生活に繋がるよう支援をしているが、全入居者様に対しては取り組めていない。		